

## 第3回岡垣町総合計画審議会 会議録

日 時：令和2年7月30日（木）13：30～  
場 所：岡垣町役場 本館3階 大会議室  
出席者：委員14名  
（事務局）：企画政策室3名  
（委託業者）：1名

※この会議録は主な要点を抜粋し、作成しています。また、委員名については非公開としています。

### 1 会長あいさつ

『第6次総合計画策定に向けた基本的方向性等について』というテーマについて審議を行う。

### 2 審議事項

『第6次総合計画策定に向けた基本的方向性等について』

**資料1** 第2回総合計画審議会議事録について

**資料2** 第6次総合計画策定に向けた基本的方向性等について

**資料3** 第5次総合計画の評価について

**参考資料** 行政区別及び産業別人口の推移について

#### ○事務局から**参考資料**について説明

##### **参考資料のポイント**

- ・20年間（平成11～令和2年）の校区別・年齢別人口推移の比較
- ・生産年齢人口（15～64歳）の減少、老年人口（65歳以上～）の増加
- ・住宅団地されて20年経過した区での社会減（20代の就職や進学の影響）
- ・昭和40～50年代の住宅団地での社会増
- ・産業別人口では第3次産業が増加し、特に医療・福祉就業者が増加傾向

##### <質疑>

委 員：南高陽区の人口が社会増になっている内訳は分かりますか。

事務局：建替を補助する定住奨励金事業等の実施により、同校区、西高陽区の建て替えが進み、若い年代が移住してきたことが一つの要因だと思われます。

委 員：同地区を選ばれた理由は何か。

事務局：地区ごとの分析は行っていませんが、全体的に地価が安かったり、近くに親御さんが住んでいるなどが考えられます。

委員：同地区の特徴はJR海老津駅の直線距離が近いということを若い世代の移住してきた方の意見をお聞きしています。

## ○事務局から資料1・資料2について説明

### ■資料1 第2回審議会議事録について

質疑なし→承認のため、ホームページに公開

### ■資料2 第6次総合計画策定に向けた基本的方向性等について

#### 資料2のポイント

- ・第6次総合計画の基本構成について  
※具体的な事業を盛り込まないまちづくりの『総合的な指針を示した計画』
- ・基本的方向性として、大きく2つの項目について  
一つ目が人口減少に対応した持続可能なまちづくりへ転換  
二つ目が住民や企業等との更なる協働のまちづくりの推進
- ・各分野別の主な政策について
- ・将来像（案）について

#### <質疑>

##### ①基本構成について

委員：10年計画になり、5年後に中間評価をするという趣旨は分かりますが、具体的な事業が記載されないということになると計画の評価どのようにするのですか。

事務局：中間の評価については、住民アンケートを実施し、満足度の変化を評価しようと思っています。また、計画の中でも大きな目標となる成果指標についても進捗度の評価を予定しています。

委員：住民のアンケート調査は回答者によって違ってくるため、まちの満足度は実質的な評価に繋がらないと思いますが。

事務局：計画の中に各分野での満足度等を踏まえた目標指標を含めた施策の成果指標を示していこうと考えています。

委員：実施計画を切り離すということであれば、住民には公開されないということですか。

事務局：今も実施計画は総合計画に位置付けられていますが、議会の報告以外は公開されていません。

委員：実施計画を総合計画から独立するというのは違うと思います。基本構想は10年間のめざす大きな構想であり、それを実現するため具体的な内容は5か年で基本計画として数値目標を示し達成度を測って、実施計画の中で予算化して議会の中で承認していく考え方でありました。

今回は、基本構想に一体化する中で総括的な構想になると、数値目標をどこどのように表現していくのか。表題に誰がみてもわかりやすく簡素化した計画を目

指すとありますが、これは誰がみてもわかりにくい、複雑な計画のように思えます。今回の構成を切り替えた理由を教えてください。

事務局：現在、総合計画は前期後期 5 年間の計画で実施していますが、実際の世間の動向は早く変化しており、計画に掲げていた事業が既に時代のニーズとはズレてしまっているということが起こっています。そこで今回の計画は 10 年一括とし、間の中間年度で評価し、実施計画はそことは切り離して、社会動向の変化にあわせた動きに対応して進めていこうという考え方です。大きなまちづくりの柱とその実現にむけた中分類となる事項を総合計画に掲げ、具体的な事業というものは総合計画に結びつくようにしますが、総合計画からは外していこうと考えています。

委員：総合計画と実施計画はかい離した考え方ということですか。

事務局：全く一体の計画ではありませんが、総合計画を実現するための実施計画、個別計画という考え方です。

委員：議会での決算の認定には、予算がどのように実行され、どのような成果を達成したのかを検討しますが、その元は総合計画の評価に基づいて示されています。今回の構成になると、議会の決算の評価について総合計画と切り離していくということであれば乱暴な考え方かと思うのであえて方向性について確認しています。

委員：10年間では長いということであれば、むしろ5年間にした方が良いのでは。

委員：総合計画というのは、長期・中期・短期計画があってしかるべきだと思うが。これまで基本計画は非常に細かな計画となっており、短期・中期の見極めがきかない内容となっていたように思います。総合計画は長期計画であり、その後中期計画、短期計画ができて、1年ごとに評価し見直して、総合計画の長期計画の目標に達成するために進めていくものではないかと思っています。

事務局：実施計画を切り離すという表現が誤解を与えているかと思います。今回の構成では、総合計画は10年間の長期的な目標を立てる計画で、実施計画は総合計画の目標を実現するための中期計画です。例えば、総合計画での健康づくりの長期目標は「健康寿命の延伸」であれば、それを実現するための実施計画の目標は「特定健診の受診率の向上」になってくるという考え方です。

委員：専門的なので、一般的な委員がわからない議論になっています。総合計画は以前は自治法で策定が義務付けられていたが、自治法の改正で義務付けがなくなりました。というのは、個別計画が各省庁で法律によって規定してくる中で自治体の方向性を示すことが難しくなってきたからです。10年間の中で法律が変わってしまったら計画が壊れてしまいます。

今回の総合計画の目的・意味合いについて町長に考えをお聞きしたい。それは、今回の方向性が事務局の考え方なのか、町長の考え方なのかかわからない。ただ、かつての総合計画と自治法改正後の総合計画は意味合いが違っていることを委員にも理解してもらわないといけない。各分野の所管課は国からの指針を受けてい

る中で、あえて町の総合計画をつくる意味合いを確認して出してほしい。国は国交省の総合計画の方向性を書いている中でその整合性。町長の意向を確かめてほしい。

会 長：私は総合計画の策定について町長からお願いを受けた立場として、町は総合計画をつくるという同意ができていると理解しています。そこまでの話になるとは忸怩たる思いです。私としては審議会で総合計画を答申が出せるところまでまとめることが使命だと思っていますし、他の委員もそのような気持ちであると思っています。

委 員：言葉が足りなかったと思いますが、今言われているのは、第5次総合計画では基本構想と基本計画があって評価をしているが、第6次総合計画を評価をするにあたって、具体的な計画の内容を立てないと評価ができないということを事務局が整理していないところだと思います。

会 長：総合計画では基本構想や基本計画らしいものは掲げるわけなので、計画の数値目標を設定し、計画が目標に対して進んでいるかを評価するということは、表現の仕方が変わるだけで内容はそれほど変わらないと理解しています。

事務局：今回の総合計画の考え方として、大きな柱となる部分や長期目標となりえる指標についてのみ総合計画に載せていくが、時代のニーズに速やかに対応していくために、実施計画や基本計画ベースの具体的な事業は掲げないという考え方で策定をしていきたい。構成図については改めて表現していきたい。

委 員：今回の総合計画の構成の中にある「具体的な事業を盛り込まない総合的な指針を示した計画」というのであれば、この総合計画は基本構想であって、基本計画には踏み込まないということであれば、めざすものが見えてこないのではないかと思います。わかりやすいかたちで視点を整理して頂きたい。

会 長：基本の構成について、表現を含めわかりやすい内容で見直してほしい。

## ②基本的な方向性について

委 員：「基本的方向性」という表現で2つの項目だけなのはどうか

事務局：基本的方向性という表現がどうかということはあるが、この2つの項目が計画全体として押さえるものとしてあげています。

## ③分野別施策（第5次総合計画の評価も含めた）について

委 員：第1章の評価表の社会環境の潮流の中で資源循環型社会をあげているが、今後の取り組みにつながっていない、生ごみ問題、資源再生、ごみの減量化等については、現状のままで良いという考え方なのか。もっと強くあげていく姿勢を出すべきではないのか。

事務局：自然環境の良さはまちの住みやすさのシンボルであり、具体的な計画の中で盛り込んでいくべきだと思っています。

委員：今のままで良いというのであれば無理に入れなくても良いですが、町のごみ処理費用として町の負担が大きくなるとかしくはいけないということであれば取り上げていくべきであろうと思います。

委員：ここでは基本的な方向としてあげているものであり、踏み込んだ分野別の施策については、次の機会を出してくると思っていますがどうか。

事務局：その通りです。ここでは代表的な項目を紹介しています。次回に計画素案を示しますのでそこで議論してもらいたい。

委員：第7章までの構成を含め、追加した方が良い内容があれば意見することで良いですか。

事務局：今回の章立ては第5次総合計画の7つの柱で示しています。第6次総合計画では柱の構成も変えていきますので、そうした構成も今後、示していき審議してもらうこととなります。

委員：文化については、伝統行事などを含めた文化なのか。サンリーアイの講座だけでなく、伝統行事や歴史など地域を根ざした取組みも進められていますので対策が必要だと思います。

委員：産業分野の5次評価の中で、観光については、町としてPRに取り組んでいるが効果がでていない。新聞やテレビで発信するなどもっと力を入れる方向を示した方が良いのでは。

委員：教育だが、今、小中学校で英語教育を力入れているが、昨年、吉木小がプログラミング教育の県指定校（県下で6校）になりました。そのような岡垣町独自の教育を育てていくことを打ち出していってもらえると良いのではないかと。

会長：防災の分野が都市計画とソフトの部分が分かれています。自然災害を防ぐためには都市計画からのアプローチと地域活動からのソフトの両面が必要となりますが、自然災害は大きなテーマでもあり、一本にまとめてもいいと思います。

事務局：第5次ではハードとソフトの部分が分けられていたのでこのようになっていますが、自然災害は大きなテーマになってくると思いますので、1つにまとめて表現していきたい。

委員：産業振興分野で自然を活かした観光振興という内容があがっているが、1次産業を岡垣町の産業として育成するのであれば、観光とのつながりが出てきます。農地や海の環境保全も含め農業・漁業等と観光と結び付けていくような施策を展開していく観光の振興も進めてほしい。

委員：想定外の災害が多くなっています。ハザードマップがあるが、一回、それぞれの川が氾濫したらどこまで浸水するのか、映像でシミュレーションをしてみたらどうかと思います。ハザードマップではわかりにくいですが、映像でみたら記憶に残

るのでないか。ハザードマップは住民に配布されているが、そのマップをみてどういふ被害がくるのかが想像がつかない。

事務局：本年度10数年ぶりにハザードマップの更新をしており、配布予定をしています。活用方法等は検討していきたいと思ひます。

委員：子育て・教育分野について、「子どもを産み育てたくなる」といふと出生率を上げるという意味かと思ひますが、子どもの虐待の相談支援が多くなっており、孤立しない子育てが岡垣町ではできることを進めて、「安心して産み育てることのできる」とした方がよいと思ひます。

委員：将来人口の推計については人口ビジョンにより示していると思ひますので、分野別施策についても総合戦略とのすりあわせをした中で内容を示してほしい。

委員：移住定住の促進については入れていかなければいけないと思ひます。

委員：公共施設の見直しと書いていますが、第5次総合計画でも公共施設等管理計画の策定というのがあり、今年はコロナの関係で、中央公民館などで換気のために窓を開けようとしても窓の開閉ができない。建替えの時期なのかと思ひますが、町の財政も厳しく公共施設の更新も難しい状況の中で、今、コロナの対応で必要になるような窓の開閉や網戸の設置などは、施設更新をすることができないのであれば改修する方向で進めていった方がよいのでは。

#### ④将来像について

委員：将来像の4要素については、矢印は4つすべてにつながっていると思ひます。将来像の「自然と共生するやさしさのあるしあわせ実感都市 岡垣町」は何を言っているのかわかりにくいと思ふ。子どもからお年寄りまでこれからのめざすまちがわかるものにした方がよい。

委員：将来像のサブタイトルが長い。簡単で合言葉のような一言で示せるような、短い物がよいと思ひます。

委託業者：今回は見本として示した段階なので、次回の計画素案の中では他のパターンを副案として示し、議論して頂ければと思ひています。

委員：将来像について、「自然と共生する」が「やさしさ」につながるがやさしさは他の意味合いとなっているので違和感がある。「やさしさ」「しあわせ」といふ言葉はおおざっぱで一人ひとりの感じ方が違うものなので難しいという印象を持ちました。「実感都市」の都市という言葉についても違和感があった。

むしろサブタイトルは岡垣らしさがでてよいと思ひました。

行政でも町民でもまちづくりを進める中でこのスローガンがおりて一つになるものが必要なのでわかりやすく、短くて、誰でも言えるようなものがよいと思ひます。

委託業者：それぞれの委員の主観もあると思うので、いくつかのパターンをつくりながら、様々な協議ができるように準備したい。

以上